

本日のテーマ

第7章（材料に関する計算）

7.1 費目別計算の意義

7.2 材料（貯蔵品）に関する計算

副費は今やると減入るので、しばらくおいてから
特に「材料庫出時副費賦課」の差異計算や記帳はわかりにくい→要研究

元帳転記は仕訳をしてから実施しよう

商品在高帳の記入は本試験では難易度高い→無理しない方がよい

仮設材料の処理→すくい出し法は簡単！しっかり押さえよう！

★材料の計算

(消費量の計算) 継続記録法と棚卸計算法・・・日商2級と同様の論点
(消費価格の計算) 平均法など・・・・・・・・・・同じく

<設例 7.2>

元帳の問題は一見するとわかりにくい

まずは、仕訳をできるように

6/12 材料 132,516／現金 132,516 (実際)
6/14 未成工事支出金 149,960／材料 149,960 (予定)
6/18 材料 187,680／工事未払金 187,680
6/25 材料 20,375／未成工事支出金 20,375
6/28 未成工事支出金 209,455／材料 209,455

差異の計算は実際額の材料元帳を計算すればOK (それが参考資料)

<移動平均の計算 (第3位四捨五入) >

6/12→ $(44,660 + 132,516) \div 217 = 816.48$
6/14→816.48 で払出
6/18→ $(26,944 + 187,680) \div 263 = 816.06$ (※合計金額の「214,624」は確定)
6/25 の戻入は払出時の単価で戻す (なかったものとする)
6/28→816.06 で払出

戻した時の再計算する必要はない (結果は同じ)

(参考 6/14 を 159 の出庫で考えると払出金額 129,820 になり、その時の残高は 58 個 47,356 円→∴再計算単価は $816.48 \rightarrow 6/18$ 受入時の単価を計算すると $(47,356 + 187,680) \div 288 = 816.097 \div 816.10$ になり結果的にかわらないことになる)

結果的に払出額は $(150,232 + 209,738 - 20412 = 339,558)$

差異は $339,040$ (予定) - $339,558$ (実績) = 518 の不利差異

★受入価格差異の把握

受入時に予定価格で処理する。
消費価格差異は発生しない

※テキストの「材料価格差異は、材料の購入時に把握したほうが、原価管理上有効である。
この場合には材料消費価格差異の算出は不要である」の意味を検証しよう

<例>

予定価格は 100 円/kg
繰越材料 0
材料 100kg 仕入
材料 80kg 消費
実際価格 105 円
在庫 20kg

	実際価格で在庫 予定価格で消費	予定価格で受入
在庫時	材料 10,500／工事未払金 10,500	材料 10,000／工事未払金 10,500 受入差異 500
消費時	未成支出金 8,000／材料 8,000	未成支出 8,000／材料 8,000
差異計上	消費差異 400／材料 400	
材料在庫	2,100	2,000

受入差異の場合は、消費分と在庫に按分する必要あり

材料 100 ／受入差異 500
未成支出 400

★仮設材料の処理

損料計算方式は後述とあるのでここでは説明しません。2級でもあった「すくい出し方式（税法許容方式）」を確認しよう。実はそんなに難しくない

	購入	463 現場終了	840 現場終了	9641 現場終了
購入・在庫金額	238,000	77,000	25,000	0
原価算入		161,000	52,000	25,000

購入時 未成工事支出金 238,000／工事未払金 238,000

463 現場 材料貯蔵品 77,000／未成工事支出金 77,000

840 現場 未成工事支出金 52,000／材料貯蔵品 52,000

9641 現場 未成工事支出金 25,000／材料貯蔵品 25,000

★練習問題 7-1~7-4 をしてみよう（後入先出法がまだあった）

7-1→実際額を把握できる外部副費は実際配賦、実際額を把握しにくい内部副費は予定配賦によることが適切であろう

7-2→損料計算による方法とすくい出し方式がある。実務では税法で許容されているすくい出し方式が採用されるケースが多い。すくい出し方式とは、例えば・・・

7-3

物品の消費によって生ずる原価→工事直接費または工事間接費として処理する
工事のために直接購入した素材など→工事直接費として処理する

7-4

<先入先出>

30 15,000	80
100 49,000	80
150 79,500	90
	30 15,900

消費額→127,600
次月繰越→15,900

<後入先出>

30 15,000	30 15,000
100 49,000	80
150 79,500	80
	90

消費額→128,500
次月繰越額→15,000

★マトメ

- ①まずは仕訳を押さえよう
- ②予定配賦の意味をしっかりと押さえる
- ③差異は記帳差額でも良いが、予定と実際の差額を意識すべし